

4 生きもの多様性プランの将来像と基本方針

4.1 将来像

地球の悠久の歴史の中で育まれてきた多種多様な生物は、それぞれが個性を持つと同時に様々な関係でつながっており、そのような生きもの多様性から生まれる恵みは、過去の世代から現在の世代に引き継がれてきたように、将来の世代に継承されるべきものです。

本市においては、市民生活の中で多様な生きものとのかかわりも深く、食物の収穫、屋敷林や庭木、烏比しゃの伝統行事など身近なところで恩恵を受け、文化的な承継も受けており、様々な場面でこのかかわりを学び、広げ、伝えていく必要があります。

しかしながら、まだ多くの豊かな自然環境が残る一方で、開発等により多くの自然環境が失われています。

本プランは、人間の活動により失いかけている生きもの多様性の保全や持続可能な利用に至る目標を明らかにし、将来像「身のまわりの生きもの多様性を知り、育み、伝えるまち 柏」を掲げ、本市の生きもの多様性の保全や回復、再生を目指して市民等、事業者、行政の各主体が一体となって協働して取組みを行うものです。

◇将来像◇

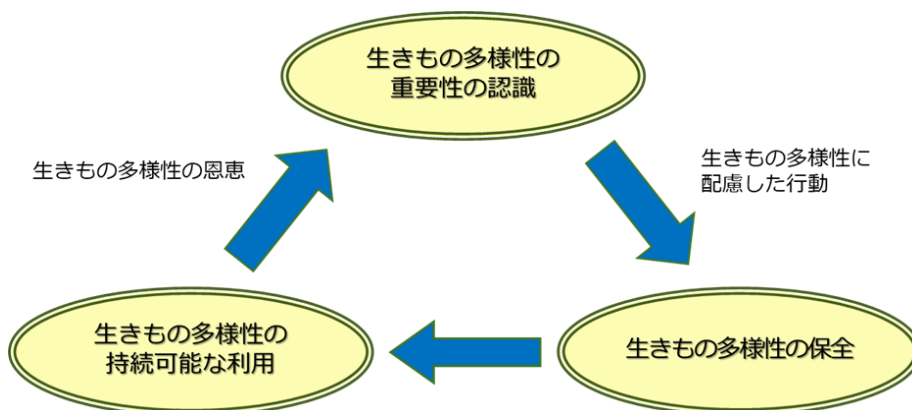
身のまわりの
生きもの多様性を
知り、育み、伝えるまち 柏

◆将来像が表現する理念の説明

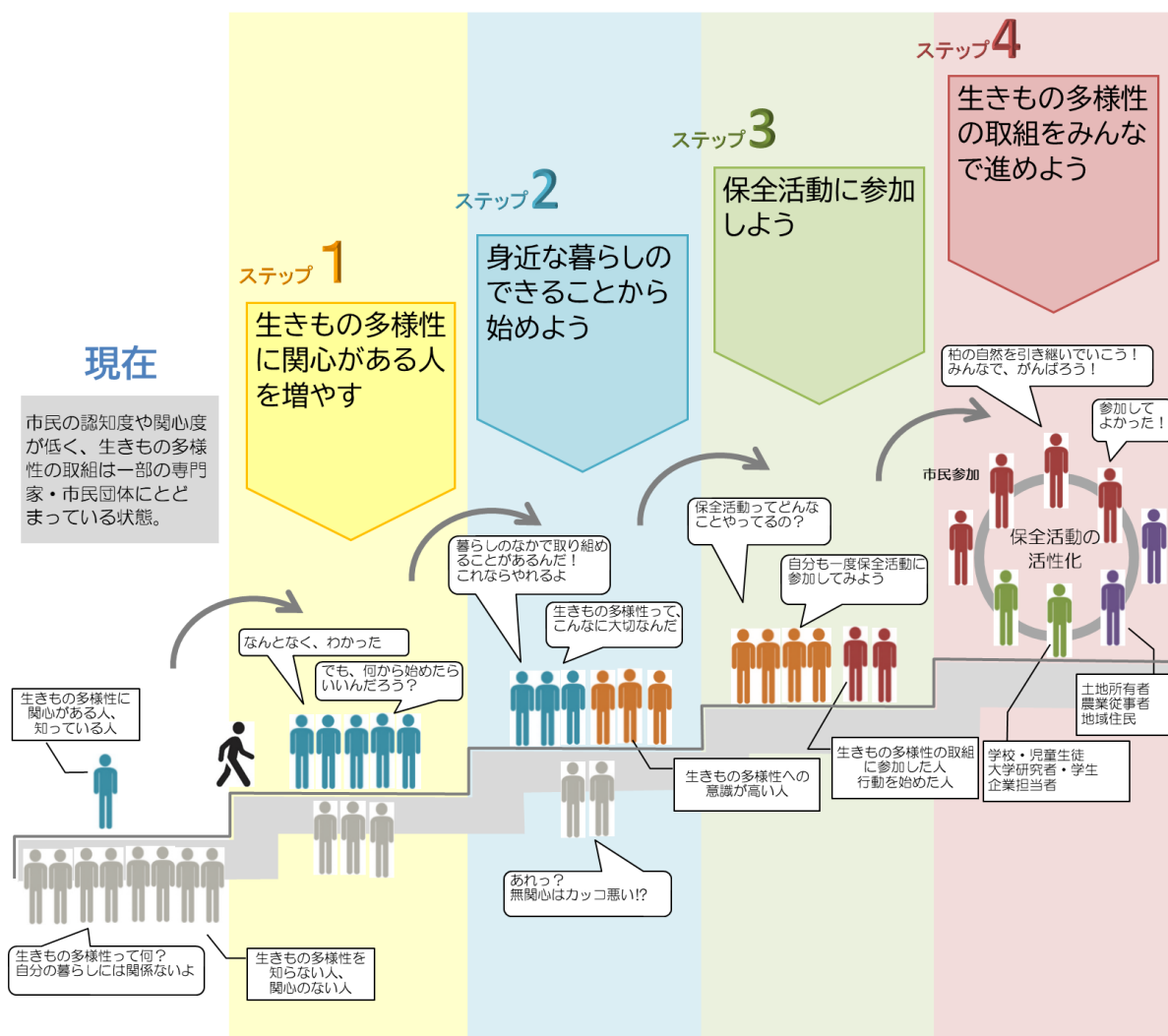
「生きもの多様性を知り、育み、伝えるまち」には、私たちの身のまわりにある生きもの多様性がどのようなものであるのかを知り、それを自分事として考えることで、身近な自然が守られるだけでなく、自然との新たな関係を築きながらそれが育まれることにより、世代を超えた「人與人」「人と自然」「様々な生態系（自然）間」の関係性やネットワークが構築されたまち”をイメージしています。

4.2 将来像を実現するための考え方

市民が生きもの多様性の重要性を認識することにより生きもの多様性が保全され、その持続可能な利用につながります。生きもの多様性の恩恵を享受することにより、その重要性が更に認識され、更なる保全活動に対する動機付けにつながるという好循環が生まれるよう取組を進めます。



◆市民の意識や行動のステップアップ



4.3 基本方針

基本方針 1 柏の自然を守り、育てる

柏らしい生きもの多様性を守り、育てる

本市は、利根川や利根運河、手賀沼といった水域と水辺、斜面林と湧水、水田により形成された「谷津」が存在しており、これらの水辺環境の保全に向け、水質の保全はもとより、湿地や岸辺の保全、地下水涵養の促進や生活排水対策の実施など、健全な水循環の確保を進めます。

また、下総台地に点在する社寺林や屋敷林、農地など様々な自然があり、それを形成する優れた緑が分布しています。

こうした水辺や緑などの自然環境は生きものの生息・生育基盤として、本市の生きもの多様性を支え、特徴づけるものであり、その保全を図っていきます。

なお、哺乳類、植物や水生生物などでは、新たな外来生物の侵入が目立ち始めています。外来生物法の主旨に則り、必要な防除等を進めます。

代表的な指標	現況値	目標	目指す状態	備考／現況値の内容
種の生息状況	生息地数 ・10箇所以上：34種 ・5～9箇所：52種 ・1～4箇所：131種	維持		市内のホットポイント36箇所において、生息が確認された箇所数別の「人里の生きもの（植物）」の種の数を指します。
緑地空間の状況	緑のオープンスペース 8.42㎡/人 （令和2年度）	増加	手賀沼や利根川だけでなく、身近な樹林地や水辺なども市民に大切に守られ、豊かな自然とふれあうことができる場の中に多様な生きものが生息している。	緑のオープンスペースとは、市が整備・管理を行う都市公園・農業公園・運動場・運動広場のほか、民有地を借地して公園的な場所として開放する児童遊園・子供の遊び場・市民緑地・みどりの広場を加えた、市民が自由に利用できる公園的な空間を指します。

基本方針 2 柏の生きもの多様性を知る

生きもの多様性への関心を高め、広げる

「生きもの多様性」は、現在、世界的なレベルで急速に失われつつあります。しかしながら、そのことを実際の生活の中で、実感することは簡単ではありません。

また、「生きもの多様性」の保全や回復は、具体的な施設を作っていくわけではなく、日々の生活の中で施策の効果が明確に理解されるものでもないため、その施策のモチベーションも高まりません。

「生きもの多様性」について市民等や事業者の関心を高め、保全や回復についての活動を活発にしていくためにも、関係する知見や情報を蓄積し、わかりやすく発信していくとともに、自然とふれあう機会や学ぶ場を創出していきます。

代表的な指標	現況値	目標	目指す状態	備考／現況値の内容
自然への関心度	自然環境への 関心度 23% (令和2年度)	増加	自然環境に関心を示す市民が増え、生きもの多様性や自然からの恵みの重要性を多くの市民が理解している。	『柏市まちづくり推進のための調査』において、「地球環境のために取り組んでいることをお選びください」という設問に対し、「身近な自然環境に関心を持っている」と回答した人の割合を指します。

基本方針 3 市民が主体的に取り組む

生きもの多様性のために行動する

環境への負荷ができる限り低減された社会経済活動が営まれ、自然との豊かなふれあいが保たれた社会、すなわち「持続可能な社会」を構築するためには、将来にわたって生きもの多様性の重要性を引き継いでいく必要があります。

そのために、自然に対する感性を育み、自然の仕組みと大切さを理解し、環境保全のために行動する市民を増やしていきます。

代表的な指標	現況値	目標	目指す状態	備考／現況値の内容
環境配慮行動の普及状況	環境配慮行動 未実施者数 25,103人 (令和2年度)	減少	環境学習や自然体験及び保全活動等を恒常に行う市民が増え、生きもの多様性に配慮したライフスタイルが定着している。	『柏市まちづくり推進のための調査』において、「地球環境のために取り組んでいることをお選びください」という設問に対し、「特に行っていない」と回答した割合5.8%にあたる人数(推定)を指します。 ※432,806人(R2.10.1時点)

4.4 計画の体系

